

# ADATARA

あだたら

## 特集1

### 「被災地檜葉町で 農業に挑む！」

平成18年度  
2次隊 山田祐子さん  
[いわき市在住]

## 特集2 現地レポート

### 「世界で活躍する JICAボランティア」

平成28年度  
0次隊 蛭田道生さん  
(日系社会シニアボランティア) ブラジル  
[いわき市出身]

## イベントレポート

### 「Visitふくしま 2016」報告!

VOICE JICA 応援団

福島市 NPO花見山を守る会  
高橋 真一さん

# 特集1

## 被災地檜葉町で 農業に挑む!



平成18年度2次隊  
派遣国:パラグアイ 職種:家政  
山田 祐子さん(埼玉県出身)

東日本大震災から間もなく6年、いまだ震災の爪痕が残る福島県檜葉町で農業に取り組む青年海外協力隊OGがいる。青年海外協力隊員としての2年間、そして現在の取り組みについて話を伺った。

### 「食べるの大好き!」だった幼少期

私の小さい頃からの夢は「おいしいものを食べること!」でした。学校の先生になりたいとか、科学者になりたいとかではなく、とにかく「おいしいものが食べたい!」というのが私の夢でした。そのため、食べ物にかかわる勉強でどんなことができるかと考えた結果、大学で「栄養学」を学ぶことにしました。そして私の研究室の先生がJICAの面接などを担当している技術顧問の先生でした。海外とのつながりというのを意識した瞬間だったのかもしれません。

海外の食べ物への興味も一気に高まりました!



### 「食」の伝道師へ

大学で栄養について学んでいるうちに「食」の素晴らしさをもっと伝えたいと思い、高校の家庭科の先生になりました。ただ、生徒には「食」の面白さがなかなか伝わりませんでした。というのも、ほとんどの高校生にとって「家庭科」は主要科目に比べたらそれほど重要ではないからです。

それならどうすれば「食」に興味を持ってもらえるかと考えたとき、私の体験談なら説得力があるかもしれないと思い青年海外協力隊に参加しました。

私が協力隊になることを相談したのは、JICAの技術顧問だった大学の先生ではなく、同じ研究室にいた青年海外協力隊OBの先輩でしたね。

青年海外協力隊の試験にも無事に合格し、晴れて家政隊員としてパラグアイに行くことができました!

### こども密着型の修道女へ転身

私はパラグアイの首都アスンシオンの隣町にある修道院が運営している私立の小学校で、モノづくりに携わる家政隊員として活動していました。住居はなんと修道院!貴重な経験をしました。

小学校では1年生~6年生に図工を教え、商品として販売できる物を作る活動をしていました。



山田さんが活動していた修道院の方々と

日本のように授業の1つとして展開するのではなく、本気のモノづくりを小学生のうちに行うわけです。商品が売れば次の商品の材料費になりますし、モチベーションにもつながります。近所の人などがよく買ってくれたため、売り上げも上々でした。



地域おこし協力隊員として島根の学校で活動中の時にやってきたガーナ人の先生と撮った思い出の一枚



現在は農業女子として活躍している

## 帰国後とこれからのお話し

帰国後は、青年海外協力協会(JOCA)で募集選考の仕事や地域おこし協力隊員として島根県の離島、隠岐島前高校で家庭科の先生をしていました。

なかでも、地域おこし協力隊員が面白く、隠岐島前高校では「高校魅力化プロジェクト」に取り組んでいました。そこでは、廃校させないために教育を充実させ、地域にあったプログラムや実習を行っていました。

私の要請はそのプロジェクトの一環で、家庭教育コーディネーターとして地域の特色を取り入れた授業づくりを行いながら、島の魅力を発信していました。教室での授業ではなく、農家さんの協力を得て田植えから稲刈りまでの実習、鶏を絞める命の授業、また校庭で野イチゴを摘んだり、社会福祉協議会に勉強に行くなど地域との交流を取り入れていました。

2015年10月からは、新しいことへ挑戦したいという思いからいろいろな人の紹介を受けて、福島県双葉郡楢葉町で農業に携わる仕事をしています。こんな未経験な私でもトラクターに乗れるようになり、好きな音楽を聴きノリノリで毎日トラクターに乗って、田んぼを荒廃させない為の作業などを行っています。

時期になれば米作りもあり、学ぶ事ばかりです。田植え機からコンバインまで乗りこなせるようになりたいです。将来は農業に携わりながら、今度は私が高校生などの実習を受け入れていけるような環境を作っていきたいです。

# 特集2

## 世界で活躍する JICA ボランティア

～ブラジルのために、ブラジルの人たちのために～



6次化勉強会ピラール・ド・スール



活動先のジュース工場内



ブラジル国パラ州トメ・アスー派遣  
日系社会シニアボランティア  
平成28年度0次隊  
蛭田道生さん  
(福島県いわき市出身)

Bon dia(こんにちは)!福島県いわき市出身の蛭田道生と申します。2016年7月から2年間の予定で、ブラジル・パラ州トメ・アスーにある日系農協CAMTA(トメ・アスー総合農業協同組合)のジュース工場に日系社会シニアボランティアとして派遣されました。トメ・アスーはアマゾン川支流に有り南緯3度でほぼ赤道直下。朝方の気温は23~24℃、日中の気温は34~36℃の毎日ですが、乾燥している為か日本の夏よりは涼しく感じます。そして、ここはアマゾン地域への日系移民最初の入植地です。想像を絶する苦難を乗り越えて戦後ピメンタ(胡椒)で成功し黄金時代を築いたものの、病害で壊滅的な状態まで落込みました。しかし、これを糧にアグロフォレストリー(森林農法)を生出し、胡椒をメインにカカオ・アサイー・アセロラ・パッションフルーツ等々…多数の果実を混裁して生産安定を図っています。同時に、この農法はアマゾンの自然破壊を防ぐために国内外から高い評価を得て、アマゾン地方はもとよりチリ・ポリビア等国外にまで広められようとしています。

トメ・アスーには福島県出身の方も多数住んでおり、いわきを始め郡山・本宮・会津等10家族以上おります。食事や釣りに誘われたりと歓迎してもらっています。一方、活動先のジュース工場はブラジル人ばかりなのでポルトガル語には苦戦していますが、皆おおらかでフレンドリーです。この先、トメ・アスーの人々の為に、少しでもお役に立てればと思っています。



## 質問コーナー

第4回目

### あなたに とって ○○とは?

このコーナーでは、派遣中の隊員や帰国後のOB・OG、JICA二本松のスタッフなど、JICAボランティアとして活躍している隊員や帰国後にJICAで得た経験を通して社会で活躍している方たちにさまざまな質問をしました!! 第4回目となる今回のテーマは、**「あなたが達成したこと」 or 「学んだこと」**です。



### 「子供達が怖がらなくなってくれたこと」です。

隣に住む2歳の男の子と女の子。初めて見る外国人、怖がって会う度に泣きだします。これではいかん! と思い、毎日少しずつ現地語を使い笑顔で話しかけました。今では毎朝2人で私の家のドアを叩き、笑顔で挨拶をしてくれます。その笑顔に毎日癒されています。

### 「コミュニケーション能力」です。

現地では、見ず知らずの人と話をすることは日常茶飯事。昔は、少し人見知りでしたが、今では、知らない人に話しかけに行きたくなるくらいです。(笑)



### 「考え過ぎず、楽しむこと」です。

私が22年前パラグアイの貧農地区で教えられたことです。仕事をしたら同じぐらい楽しいことをして一日を終える。風邪でも生死を分ける生活、絶対的貧困では悩んでも答えはなく、病む。生きるということの究極。一日一日を素直に楽しみながら生きることを学んだ。達成!?!には、ほど遠いが…。





# VOICE

ボイス

～JICA二本松応援団～

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援して下さっている方にJICAボランティアとのエピソードや期待・エールをインタビューします。

今回は、JICAボランティアの派遣前訓練「所外活動」でお世話になっているNPO花見山を守る会代表 高橋真一さんです。高橋さんは県内屈指の桜の名所「花見山」で復興支援・雇用創出の一つとして桜の苗木の植樹活動などに力を注いでいます。



春頃から様々な植物が見ごろを迎える



花見山から福島市内が一望できる



NPO花見山を守る会スタッフ 宗形 幸栄さん NPO花見山を守る会代表 高橋 真一さん

## 「花見山を守る会」とはどのような会ですか？

花見山の景観を撮り続けた写真家「齋藤守さん」のクリーンアップ活動の精神に感銘を受けたことがきっかけで2005年4月に発足した会です。

昔、この一帯には花木農家さんが20～25軒ほどあり、生け花用の花を育てていました。しかし高齢化や後継者不足の問題で花木農家さんは10軒ほどに減ってしまいました。我々は、そんな花木農家さんを守り、地域と共に歩み続けています。

また4年前から東日本大震災で震災孤児となった子どもたちの支援や福島市に移り住んでいる多くの被災者の方々のサポートも行っています。

これまでに全国から1000人近くの方々が花見山を守る会の活動にボランティアとして参加していただきました。

## 「花見山を守る会」はどのような活動を行っていますか？

花見山といっても花見の時期だけに活動をするわけではなく、1年を通して様々な活動を行っています。まず1年間を通して行っているのは桜の手入れです。古くなった桜の枝をとるための見回りなど花見のシーズンに合わせて準備をしていきます。春から秋にかけて草刈りを行い、冬の時期は農道整備や登山者が道を見失わないよう木片チップで歩道を作ります。他にも地域との貢献活動や自然保護活動などにも力を注いでいます。

JICAボランティア訓練生にはチューリップの球根植えや菜の花の種まき、歩道の整備などを手伝ってもらいました。またその他にも実際に桜の植樹も行いました。

## ご自身の活動を通してJICAボランティア訓練生にはどのようなことを伝えていきますか？

4年前からJICAボランティア訓練生をこちらで受け入れています。

花見山には毎年多くの方が花見や登山などを楽しみにやってきます。そんな方々が楽しめるよう訓練生には環境整備のお手伝いをしてもらっています。

皆さん大変明るく、こちらも前向きな気持ちにさせてもらっています。所外活動だけのつながりではなく、修了式にも参加して所外活動に来てくれた皆さんとの再会も楽しみにしています。

訓練生には、花見山の活動であっても海外の活動であっても志をしっかり持って活動することを伝えていきます。また「誰かの役に立ちたい」という思いでJICAボランティアに応募したと思うので、その思いはJICAボランティアが終わっても忘れないでほしいですね。私自身これからもそんな訓練生の背中を押していければと思います。

高橋さん、インタビューに答えていただきありがとうございました！

「花見山を守る会」トレードマークのピンクの帽子を派遣国に持っていく隊員も多そうなんです。訓練生にとって花見山で行う所外活動はかけがえのない時間になっています。



# EVENT イベント

＼ イベント報告 ＼

ふくしま青年海外  
協力隊の会(OV会)主催

## Visit ふくしま 2016 開催!



Visitふくしま2016を主催したOV会



三村悟氏による講演「開発の視点から考える被災地のより良い復興」

12月10日(土)、11日(日)の2日間、JICA二本松訓練所で「Visit ふくしま 2016」が開催され、日本各地から多くの青年海外協力隊OB・OGが集まりました。

2016年3月まで開催されていた「ふくしま応援ツアー」の終了にともない2016年12月から始まった「Visit ふくしま 2016」。当日は震災発生時の様子や福島復興、そしてJICAボランティア経験を地域で活かす手法など、OB・OGが講師となり分科会形式で開催されました。

訓練期間中の2016年度3次隊訓練生を含め、約200名がこのイベントに参加し震災の正しい知識を身につけました。

震災当時、福島県の避難者は16万人超に上りました。そしてその多くが県内各地、県外へと移転を余儀なくされました。震災から6年が経とうとしている今なお多くの方々が県内外で避難生活を送っています。

これからのJICAボランティアは「国際協力」だけにとらわれるのではなく、日本を含めた「地域活性化」への社会還元も期待されます。

## 2017年度春募集開始!

3月31日(金)～5月10日(水)まで、全国各地でJICAボランティアの募集説明会が開催されます!

福島県ではJICA二本松訓練所で1日体験入隊を開催予定! 2017年度1次隊の訓練生たちと交流を深めながら、協力隊へのイメージを膨らませましょう。

またJICAボランティア経験者やスタッフによる職種別相談や個別面談など充実した内容を準備しております。皆さまの参加を心よりお待ちしております!

県内では以下の日程で募集説明会を兼ねたイベントを行います。(要予約)

- 4/ 2 (日)……1日体験入隊 ～入門編～
- 4/30(日)……1日体験入隊 ～合格編～

※詳細はWebで!!

JICA二本松訓練所



## イベントカレンダー

- 3月15日(水)……2016年度4次隊 青年海外協力隊 修了式
- 3月16日(木)……おいしく学ぶ、世界の暮らし パラグアイ編
- 3月31日(金)～5月10日(水)……2017年度JICAボランティア春募集受付期間
- 4月 7 日(金)……2017年度1次隊 JICAボランティア入所式
- 5月10日(水)……2017年度1次隊 シニア海外ボランティア 修了式
- 6月14日(水)……2017年度1次隊 青年海外協力隊 修了式



福島にゆかりのある

# JICAボランティア

2016年度4次隊

※①出身地 ②派遣予定国 ③職種



青年海外協力隊  
寺田篤哉さん

- ①埼玉県
- ②モザンビーク
- ③コミュニティ開発



訓練期間中に小・中学生、高校生など多くの人たちとの交流を持ちたいと考えています。また二本松市小浜地区の方々には大変お世話になったので、元気な姿を伝えたいと思います。



青年海外協力隊  
高橋睦美さん

- ①福島市
- ②ケニア
- ③コミュニティ開発



訓練では大変なこともあると思いますが、派遣国で思うような活動ができるよう頑張っていきたいと思えます。



青年海外協力隊  
館川晃絵さん

- ①郡山市
- ②グアテマラ
- ③家政・生活改善



子どもの頃に海外へ行ったとき、日本との文化の違いを自分の体で直に感じました。大人になり、知識も増えた所でそれ以上の世界を知りたいと思いJICAボランティアを志望しました。グアテマラで栄養士の経験を生かした活動を頑張ります!



青年海外協力隊  
吉田雪絵さん

- ①郡山市
- ②セントビンセント
- ③再生可能省エネルギー



「Where there is a will, there is a way. (為せば成る、為さねば成らぬ何事も)」もうダメだと諦めることなく、自分を信じて、相手を信じて2年間活動に励んでまいります!

## 福島県出身ボランティア

市町村別 派遣中隊員数



2017年1月31日 現在  
合計派遣中:31名 累計:736名

青年海外協力隊				シニア海外ボランティア			
派遣中	28	累計	669	派遣中	2	累計	46
日系社会青年ボランティア				日系社会シニアボランティア			
派遣中	0	累計	10	派遣中	1	累計	6

## JICA二本松になんでも相談! / なんでも相談窓口



### 受け付け内容はJICAに関すること全て!

例)・青年海外協力隊とシニア海外ボランティアに関すること  
(応募・選考、職種選び、派遣前訓練、現地のサポート、健康面、語学etc.)

- 草の根技術協力
- 中小企業海外展開支援等
- JICA二本松施設訪問
- JICAプロジェクト現場訪問
- 研修員受け入れ
- 共催イベント
- 講師派遣依頼
- 大学連携

※いただいた個人情報は本業務以外には使用致しません。

ぜひ一度ご相談ください!

JICA二本松 なんでも相談窓口



## 公式SNSラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook



青年海外協力隊の訓練の様子をのぞいてみよう!!

毎日、更新中!

<https://www.facebook.com/jicantc>

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて  
~青年海外協力隊の道~



世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷりうかがえます。

毎週土曜 / 8:30~8:55

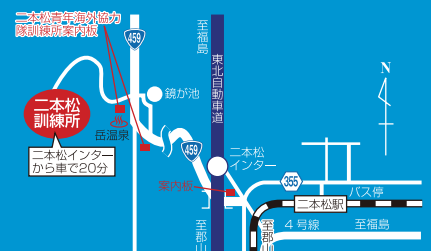
FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ



二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分!

第2木曜 / 13:00~14:00  
(再放送:第3木曜/13:00~14:00)



独立行政法人国際協力機構  
二本松青年海外協力隊訓練所  
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2  
Tel: 0243-24-3200 Fax: 0243-24-3214

●本誌に関するお問い合わせ  
JICA福島デスク 担当:室井(むろい) Tel:024-524-1315 Fax:024-524-8308  
〒960-8103 福島市舟場町2-1 (公財)福島県国際交流協会内